

津波から守った息子 戦場には行かせない

性になり、当時5年生の男の子がひとり残されました。親類に引き取られましたが、今も米谷さん宅を訪れます。

東日本大震災から11日で4年半

を迎えました。津波で自宅兼店舗を失った宮城県石巻市の美容師米谷康予さん(44)は先月、戦争法案反対の署名を集めました。息子と2人暮らし。「3・11から命がけで守った息子が『安保』の名の下に戦場に出されたら、私は法案に賛成するすべての議員を許さない」と語ります。(安川崇)

戦争法案反対 署名集め

「バキバキ」というものすごい音を聞き、2階に駆け上がりました。津波の水位が増し、階段を上った水が2階の床にサーッと広がった時は「終わって」と感じたといいます。

真つ暗な自宅で一夜を過ごし、同じ年の友人宅がある川の対岸地域が燃えさかるのをほうぜんと見つめました。避難所を転々とした後、仮設住宅に入居。トレーラーの荷台部分を部屋状に改装した「トレーラーハウス」を中古で入手し、1年後に美容院の営業再開にこぎつきました。自宅も再建。しかし、建築費用も含め3重のローン支払いを抱えま

あの日。地震で激しかねば。自分の手で避く揺れる美容院にいた難させなければ」。川3人の客を柱の多い空沿いの裏道を急いだ時間に移動させ、次いで近くの中学校に避難させます。そして、6歳だった息子を引き取りに保育所に走りま

「とにかく手元に置 助けに戻った自宅前

宮城・石巻の美容師 よね やすよ 米谷康予さん



トレーラーハウスの美容院で語る米谷康予さん(10日、宮城県石巻市)

「首相は謝るか」

戦争法案をニュースで知ったのは最近のこと。子どもたちの顔が頭に浮かびました。「戦場に行くのは、この子たちだ」

自分が法案に賛成する理由が、見つからない。「私の大切な子が戦争で傷ついたら、首相は謝るのか。賛成した議員は謝るのか。大切な人を津波や震災関連死から守れず、今も生きている人たちの気持ちかわかりますか」

先月、近くのショッピングモールで市民らによる戦争法案反対の抗議行動を見かけ、「署名の紙を下さい」と声をかけました。2週間知人ら50人の署名を集めたほか、美容師仲間などいくつかのグループにも協力を依頼しています。

友人の子は中学3年生になり、身長180センチを超えました。

「遠くない将来、あの子が温かい家庭を求めた時に、戦争のせいで再び失うことがあってはならない」。強くそう思います。